旭ヶ丘キリストの教会
主日礼拝順序
２０２１年１２月１２日

司会：千田俊昭
奏楽：千田祥子

黙　　祷		一　同
讃　　美※	讃美歌95「わがこころは」	一　同
主の祈り※	（聖歌表扉または讃美歌564番をご覧ください）	
讃　　美	讃美歌465「うれしき朝よ」	一　同
教会学校	絵本「靴屋のマルチン」	牧　師
讃　　美	讃美歌497「天なる日月は」	一　同
聖書朗読	黙示録18：21-24	
奨　　励	黙示録の福音(第24回)	牧　師
主　　題	「滅びる者ではなく」	
讃　　美	讃美歌493「罪の淵に陥りて」	一　同
献　　金	献金と感謝の祈り	
聖　　餐		
頌　　栄※	讃美歌546「聖なるかな」	一　同
祝　　祷※		牧　師
来週の箇所	クリスマス・メッセージ	

※印のところでは御起立下さい。

☆　はじめて集会においでの皆様。心から喜び、感謝してお迎え申しあげます。しかし、初めての方に無理な勧誘をするようなことは、一切いたしません。むしろ、そっとしておきたいと思うわけです。その態度を冷淡や不親切と誤解なさらないで下さい。
☆　私たちは何派にも属さないクリスチャン個人の自由な交わりの教会です。聖書を学び、キリストに信頼し、キリストが与えてくださる神の義を何より大事にし、信じる者同志が兄弟姉妹として受け入れ合う群れです。
☆　献金は神への感謝として、各自が自由意志で行うものです（２ｺﾘﾝﾄ9:7）。入り口に献金箱がありますので、どうぞご利用下さい。
☆　キリスト教について、あるいはどんな質問でも、いつでも遠慮なく牧師にご相談下さい。
☆　第二礼拝後、軽食を用意してありますので、お時間のある方はどなたでも、ご自由にお召し上がり下さい。
☆　二階に教会図書がありますので、どうぞご利用下さい。

旭ヶ丘キリストの教会　ニュース

《今週の歩み》
12/12(日)聖日礼拝
/13(月)
/14(火)
/15(水)
/16(木)10:00聖研
/17(金)
/18(土)13-16子供ｵｰﾌﾟﾝﾊｳｽ
/19(日)クリスマス礼拝

《祈りの課題》
①コロナ禍の速やかな終息のために
②礼拝に来れなかった人々のために
③教会学校の子供たちが救われますように

良書ハイライト

『鳥の歌』とパブロ・カザルス

大塚野百合著『『きよしこの夜』物語』(教文館,2015)

心に沁みるクリスマスの曲「鳥の歌」は最近日本の多くの音楽家によって演奏され、CDに録音されています。チェロの偉大な奏者パブロ・カザルス(1876-1973)が故郷カタロニアのこのクリスマス・キャロルを特別に愛して編曲し、この歌を世界に広めました。クリスマスの歌は、普通、大きな喜びを響かせるのですが、この曲には不思議な哀愁が満ちています。この歌は民謡なので、誰が作詞・作曲したのか分かりません。

1．夜が明けて　小鳥たちは歌い始める　良い知らせを
「ベツレヘムに　かわいい幼子が　生まれ給うた　この方こそ　神の独り子」と
2．小鳥の歌　村に町に告げ知らせる　良い知らせを
「この世の罪　その身に負うために　生まれ給うた　この方こそ　世の救い主」と
（新聖歌94番）

カザルスは1961年11月13日、ケネディ大統領に招かれてホワイト・ハウスでコンサートを開きました。そのとき彼は最後にこの「鳥の歌」を演奏しました。彼が弾き始めるや、深いチェロの音が、まるで大地の底から湧くように響きました。カザルスはスペインがフランコによるファシスト政権の支配下にあった時、南フランスのプラードに30年以上も亡命するという悲運を耐えたのです。それゆえ彼が弾くこの「鳥の歌」には故郷カタロニアに対する望郷の思いが込められています。またそれと共に、主イエスの誕生によって世界に平和がもたらされる、と信じている彼の平和への深い祈りが、このカタロニアのクリスマス・キャロルに響いています。『カザルスとの対話』(ホセ・M・コルドール著)には次のようなカザルスの言葉が載っています：

歴史上、いまだかつて現在のように世界が破滅に近づいたことはなかった。私たちの時代において、科学の驚異的な征服は、まことに恐るべき力を持った武器を作ることに力をかしました。混乱と恐怖が全世界を覆い…世界の危機を日一日と増大しているのです。しかるにこの地上に満ちた人類のひとりひとりが、平和を渇望しております。